

平成 30 年度 県立勝田高等学校自己評価表

目指す学校像		・心身ともに健やかで、気力に満ちた有為な人材を育成することに努める学校。 ・生徒の自立心を伸長し、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を培うことに努める学校。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
・学習指導 生徒は概ね積極的に学習に取り組み、意欲も増している。予習復習をしている生徒は 47%にとどまる。自発的な学習習慣の定着化を図ることが課題である。 ・進路指導 組織的・計画的・継続的な進路指導を行う。キャリア教育を推進する。AO・推薦入試受験者の増加に伴い、AO・推薦入試指導の充実を図る。 ・生徒指導 生徒の大部分が規律を守り、落ち着いた生活を送っている。規範意識の一層の向上を目指す。交通関係の事故を無くすべく、交通安全指導の充実を図ることが課題である。 ・特別活動 部活動加入率は 80%以上を継続しており、生徒会活動、部活動等概ね活発である。等の学校行事をさらに充実した内容にするために、生徒会及び実行委員会の主体的な活動を支援することが課題である。		1 豊かな心の育成	①「挨拶」をする、「時間」を守る、「身だしなみ」を整える、ということ徹底し、規範意識の高揚を図る。 ②奉仕的活動等への参加を積極的に推進し、豊かな人間性を養う。 ③国際教育の充実を図り、広い視野と多様性を尊重する態度を養う。	A	
		2 確かな学力の涵養	④教師も生徒も授業第一をモットーに、学究的な雰囲気の醸成に努める。 ⑤面談を充実させ、個々の生徒に応じたきめ細かな指導を行う。 ⑥授業内容と方法について工夫改善を加え、生徒の学力向上に資する。	B	
		3 進路指導の充実	⑦高校 3 年間を見据えた組織的、継続的な進路指導体制の確立に努める。 ⑧適切な勤労観、職業観の育成を図り、生徒の主体的な進路選択能力の向上を図る。	B	
		4 特別活動の活性化	⑨HR 活動や生徒会活動、部活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。 ⑩道徳教育等を推進し、学校生活における様々な規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。	B	
		5 連携の強化	⑪教職員間の連携を深めるため、報告・連絡・相談・確認・記録の徹底を図る。 ⑫保護者や地域住民への情報発信を積極的にに行い、本校に対する理解と協力の獲得に努める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題 ・アクティブ・ラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善について研修を更に進め、指導力の向上に努める。
教科指導	基礎基本の定着を図る。	練習問題等を積極的に課し、反復して学習するように指導する。		B	
	指導内容と方法について工夫改善を図る。	アクティブ・ラーニングの視点から、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善について研修し、指導力の向上に努める。		C	
	学習の習慣化を図る。	学習の記録をつけさせることにより、家庭学習の取組方法を改善するための指導を行う		A	
		家庭学習の必要性和効果が実感できるような授業を展開し、学習の習慣化を図る。		B	
	進学意識の高揚と学力の向上を図る。	入試問題や模擬試験問題を積極的に活用する。		B	
授業時間以外の課外等の充実を図る。		A			

別紙様式 2 (高)

教 科	国語	基礎学力の向上を図る。	入門期の指導を徹底し、高等学校の学習への速やかな移行を促す。	A	B	・新テストへの対応した指導を充実させるために研修の機会を確保する。 ・進路対策の小論文指導について、国語科に加え、進路指導部及び3学年の協力によってより深い指導を行うことができたので、その協力体制を継続する。
			小テストや週末課題等で反復指導を行い、語彙力・文法・読解等の基礎力の定着を図る。	A		
			資料・テキスト等を活用した丁寧な授業を通して、深く考察する姿勢を養う。	B		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	模擬試験終了後の解答及び解説を行い、苦手項目の克服を図る。	B		
			授業において生徒自ら要約ができる力を、課外授業等を通して、解答を導く力の養成を図る。	B		
			問題集を課題とし、多くの演習を行うことで、応用力の充実を図る。	B		
			進路指導部、3学年と連携を取り、小論文に対応できる表現力、思考力を身につける。	A		
			進路指導部、3学年と連携を取り、小論文に対応できる表現力、思考力を身につける。	A		
	地歴 公民	基礎学力の向上を図る。	古典の学習を通して、先人の知恵や教養、日本古来の文化に触れる。	B	B	・基礎学力を向上させ、大学入試への対応力を高める。 ・主権者教育を充実させる授業を実践する。 ・大学入試共通テストに対応したアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。
			現代文の学習を通して、多様なものの見方に触れ、思考力の育成を図る。	A		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	ノート・課題等を提出させることにより、学習状況を確認し、授業の工夫改善に努める。	A		
			小テストや問題演習等を数多く行い、繰り返し学習ことで、基礎基本の定着を図る。	B		
			放課後・長期休業中の課外等の実施により、豊富な知識と応用力を養成する。	A		
		国家・社会の形成者としての意識を醸成する	大学入試問題や模擬試験の問題を研究し、授業や試験問題の作問に活かす。	B		
			模擬試験の解説により、大学入試の傾向を伝える。	A		
	数学	基礎学力の向上を図る。	主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を養成する。	B	B	・基礎学力の向上を図る。 ・成績層ごとの指導の工夫・改善を行う。 ・大学入試共通テストの研究とそれに対応できる力を養成する。
			授業目標・評価方法等を明確に生徒に示し、シラバスに基づいた計画的かつ継続的な学習指導を行う。	B		
			課題として授業・課外の内容の基本演習を課し、基本演習の充実を図る。	B		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	定期考查や模擬試験後の問題の解答解説の充実を図る。	A		
			授業進度の確認や生徒の理解状況、大学入試問題の傾向等を教職員間で共有し、連携しながら生徒の進路に応じた学力を養成する。	B		
			放課後、土曜日及び長期休業中の課外に継続性を持たせる。	A		
	理科	基礎学力の向上を図る。	授業や課外での、模擬試験等の問題演習や解説を通して、応用力を身につけさせる。	B	B	・基礎学力を向上させるとともに、大学入試への対応力を高める。 ・アクティブラーニングを取り入れ、生徒が主体的に学べるような授業を工夫する。
			家庭学習の必要性と効果が実感できるような授業を展開し、学習の習慣化を図る。	B		
			最新の話題を提示することで科学的な自然観を育成させるとともに、疑問点を主体的に見いだそうとする意欲を持たせる。	A		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	小テストや問題演習を実施し、基本的な概念や考え方の定着を図る。	B		
			定期考查や小テスト等にセンター試験・個別試験の内容を反映させ、かつ実施後の復習も丁寧に行う。	A		
			模擬試験について、過去問の演習や実施後の指導を拡充する。	B		
			早朝、放課後及び長期休業中に課外等を実施し、実力の養成を図る。	A		
	保健 体育	体力の向上を図る。	自己の能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指す。	B	B	・体力テスト測定値の低い種目の向上を目指す。
			技能や体力を高めるために、運動の合理的な行い方を身に付けさせる。	A		
		健康の保持・増進ための実践	個人生活や社会生活における、心身の健康への関心を喚起する。	A		

別紙様式 2 (高)

		力を育成する。	自ら健康で安全な生活を実践できるような態度を育成する。	B		
	芸術	音楽活動の基礎能力を高める。	歌唱、器楽、創作、鑑賞の音楽の幅広い活動を通して、音楽を形づくっている要素を知覚・感受させる。	B	B	・歌唱や器楽に偏らず、創作や鑑賞の学習もバランス良く行い、様々な角度から音楽に触れることで、音楽活動の基礎能力を高める。
			表現活動に積極的に取り組むことができるよう、個に応じた指導を行い、基礎的な技能を高める。	A		
		音楽文化についての理解を深める。	我が国の伝統音楽を学ぶことで、日本の文化を尊重する態度を育てる。	A		
			世界の名曲を演奏したり、鑑賞したりすることで、世界の音楽文化についての広い視野をもたせる。	B		
	外国語	基礎学力の向上を図る。	早期に中学履修事項の定着を図り、高校の学習内容につなげる。	B	B	・「2 級合格者を増やす」という目標が曖昧であるという反省を踏まえ、2 級合格者数の明確な目標値を設定する。 ・4 技能 5 領域における更なる能力伸張のため、指導法の研究を更に加速させる。
			小テストや演習を定期的実施して、学習効果を高める。	A		
			週末課題等の実施・提出を通して、学習習慣を確立させる。	A		
		大学入試に対応できる学力を養成する。	生徒一人ひとりの進路希望に応じた、課外や個別指導を実施する。	A		
			2 年次から入試問題対策演習を段階的に実施し、実力の向上を図る。	B		
			生徒が各自の課題を明確化し、効果的に学習を行うため、外部試験を活用する。	A		
		英検合格者の増加を目指す。	英検課外を積極的に行い、英語学習への意欲を喚起する。学習効率を高め、2 級合格者を増やす。	B		
	家庭	基礎・基本の充実を図る。	個に応じた指導を行い、基本的な知識と生活技術を身に付けさせる。	A	B	・グループワークや実践的体験的学習をより多く取り入れることで、主体的に授業に取り組む態度を育成し、確かな知識と技術の定着を図る。
			実践的・体験的な学習をより多く取り入れ、授業がわかる喜びを実感させる。	B		
		生活の充実向上を図る能力と態度を育てる。	身近な生活の中に課題を見出し、授業で学んだことを生かして、これを改善しようとする態度を育成する。	A		
		豊かな心の育成を図る。	家族・社会の変化・課題に関心を持たせ、共に助け合いながら生きることの大切さに気づかせ、自他の生命を尊重する態度を育てる。	B		
	情報	情報活用の実践力を育成する。	Word・Excel・PowerPoint について、実習を通して基本的な技術の習得に努める。	B	B	・Word, Excal, PowerPoint の基本操作実習に加え、プログラミングによる問題解決学習を通して、情報活用の実践力を育成する。
		言語活動の充実	情報通信ネットワークとコミュニケーションについて理解させ、プレゼンテーション活動を通して、自己表現力や他者理解について指導する。	B		
		情報社会に参画する態度を育てる。	プライバシー・著作権・情報モラルに関する学習を通して、情報が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。	B		
			各種メディアから進路に関する情報を収集・整理し、自己の在り方生き方について主体的に考える態度を育てる。	B		
	教 務	授業時間の確保に努める。	各授業時間の実施状況を確認し、授業時間の確保に努める。	B	B	・次期教育課程について研究し、2020 年度の完成を目指す。 ・情報機器の更新・整備の継続により、情報処理環境を充
			各部・各学年と連携し、行事等の能率的運営を図る。	A		
		学習指導の充実を図る。	年間計画(シラバス)を生徒に配付し、授業の目標・学習方法・評価方法を明確に生徒に示す。	B		
			校内研修、教員相互で授業参観をする機会を設けることで、より一層の授業の充実を図る。 評価方法及び学びの改善に関する研修会を実施し、指導と評価の一体化に努める。	C C		

別紙様式 2 (高)

	開かれた学校づくりをめざす。	各部・各学年と連携し、ホームページを定期的に更新するとともに、詳細な情報を保護者、地域に発信するように努める。	B		実する。 ・教科指導内容と方法について工夫改善を図る。
		中学校との情報交換を行い、連携強化を図る。	B		
		より多くの中学生が本校に関心を持つように、学校説明会の内容と運営方法の改善に努める。	A		
		学校評議員会を通して、学校運営全般に関する意見を積極的に聴取する。	B		
	情報処理環境を充実させる。	情報機器の更新等、機器の整備を図る。	C		
		校内ネットワークにおける情報管理を徹底する。	A		
		成績処理を中心とした、生徒情報の管理システムを安定させる。	B		
進路指導	組織的・継続的な進路指導体制の確立に努めるとともに、生徒の主体的な進路選択能力の向上を図る。	進路指導内容を学年間で引き継ぎ、進路指導における学年間連携を深める。	B	B	・大学入試改革や新学習指導要領に向けて、進路シラバスの見直しを図る。 ・模試やスタディーサポートの結果分析を充実させ、指導に活かす。
		K T・L H R 及び学年集会を計画的に活用し、進路学習の充実を図る。	A		
		生徒の実態に応じた進学講演会・研修会等を行う。	B		
		事前事後の指導の充実と、他行事との関連を深めることにより、進路行事の充実を図る。	A		
		進路資料、教員のための進路指導シラバスの充実を図る。	B		
	チャレンジ 70 〔国公立大+難関私大合格者数 70 名以上〕	生徒に基礎的基本的な知識技能を定着させるとともに、それらを活用できる思考力・判断力・表現力等の育成を目指した教師の指導力向上を図る。	B		
		学習状況調査等を実施し生徒の学習状況を明らかにして、その情報を共有し指導に活かす。	B		
		土曜日に課外を実施する。	A		
		学習館を学習のために開放することで、自学自習の習慣化を図る。	A		
		A O 入試・推薦入試等指導体制の充実を図る。	B		
	キャリア教育を推進する。	進路学習等を通し、「学ぶこと」や「働くこと」への意欲や積極的な態度を育てるとともに、高等学校卒業後、社会における自らのキャリア形成を計画しようという自ら調べ、探求する態度を育て、実行できる力を育成する。その一つとして、看護体験など、校外での体験研修等の充実を図る。	B		
生徒指導	生徒の実態把握に努め、問題行動の早期発見・未然防止に努める。	被害調査を年に 3 回実施する。	A	B	・職員間の共通理解をさらに深めることにより、生活指導を徹底する。 ・交通安全の充実を図るため、継続指導が必要である。
		校内・校外巡視を実施する。	B		
		各学年と連携し、朝の立哨指導や服装一斉指導時に生徒への声掛けを積極的に行う。	A		
	規律ある生活態度を育成するとともに、社会の形成者としての資質の向上を図る。	服装・頭髪指導の徹底を図る。	B		
		遅刻指導・授業のチャイムスタートの励行を図る。	A		
		校外のキャンペーンの参加や、保護者（生徒指導委員）、特別活動部と連携した校内でのあいさつ運動の展開を通して、マナーの向上に努める。	A		
	交通安全の充実を図る。	通学路における登下校指導の徹底を図る。	B		
		交通安全講話の実施、啓発プリントの発行等を通して、交通安全意識の高揚と事故時の対応力の向上を図る。	A		
		自転車点検を年に 3 回実施し、交通事故の未然防止を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

特別活動	部活動の振興により、心身の健全な育成を図る。	新入生へのガイダンス等において、魅力ある部活動紹介を実施する。	A	B	・芸術鑑賞会、銀杏週間等の学校行事をさらに充実した内容にするために、生徒会をはじめ、全校生徒の主体的な活動を支援する。
		運動部・文化部の指導者の適切な配置を行う。	A		
		指導者の資質の向上を図る。	B		
		施設設備の充実を図る。	B		
	特別教育活動に参加する生徒の意識の向上と内容の充実を図る。	主体的な生徒会活動の促進を支援する。	A		
		充実した学校行事の企画・運営を行い、生徒の積極的な参加を促す。	B		
		各種委員会での生徒の主体的な活動を支援する。	B		
教育相談	面接の充実を図る。	担任と生徒の面接週間を年2回設定し、問題点を把握し、早期解決ができるようにする。担任から依頼された生徒及び自主来談者の面接を積極的に行い、効果を上げる。	B	B	・関係職員の連携を深め、チーム支援の充実を図ることで、生徒の抱える問題を早期に発見し、解決に導くことができるようにする。
	職員研修の充実を図る。	職員研修会を少なくとも年1回実施する。教育相談に関する資料や情報を教職員に広報することにより、問題を共有化して理解を深める。	B		
	スクールカウンセラー（SC）を積極的に活用する。	担任とSCの連携を深化させることにより、問題を有する生徒への早期の対応を図る。多様な見方から問題を捉え直すことにより、その解決の方策を担任（学年）と共に探る。	A		
保健厚生	環境整備及び美化に努める。	年間2回の清掃用具の点検や日常的なチェックを徹底し、清掃用具の充足を図る。	B	B	・清掃を徹底するためのマニュアル作成など効率よく実施できるような支援をする。 ・防災訓練の内容を精選し、より実態に即したものとする。 ・安全点検の結果を踏まえ、速やかに不具合箇所等の整備に努める。
		学校全体で日常的な清掃の徹底に努め、環境の美化に努める。	B		
		教室環境検査を実施し、学習環境の改善に努める。	B		
	心身の健康増進を図る。	健康診断を通して、生徒個々人の健康状態の把握に努める。	A		
		集団や個別に対する保健指導を適切に行い、健康に生きる力・意欲を育てる。	A		
	防災・安全点検等を推進する。	防災訓練を通して、防災意識を高め、災害時に迅速な避難行動が取れるようにする。	B		
	各種奨学金制度の周知及び手続きの徹底を図る。	定期的に安全点検を実施し、安全な生活環境の整備に努める。	B		
		各種奨学金制度の案内を校舎内及び教室等に掲示し、生徒の関心を喚起する。	A		
図 書	本に親しむ習慣の育成を図る。	「図書館だより」を毎月1回以上発行し、本への興味を高め、読書の習慣を育む。	A	B	・視聴覚室の整備に努め、視聴覚機器の廃棄を進める。
		生徒・教員から図書購入希望を随時受け付け、そのニーズに応えることで、図書館をより身近な存在として意識し、利用を促進する契機とする。	B		
	図書館環境の整備を図る。	図書館内外の環境を整備し、落ち着いて読書できる雰囲気づくりに努め、図書委員の推薦図書コーナーを設けるなど図書委員会の活性化を図る。	A		
	校内外への情報の発信を積極的に行う。	生徒・保護者に「図書館だより」を配付し、本校の図書館の特色や蔵書等について発信する。特に新入生には図書館の利用指導を行い、積極的な利用を呼びかける。	A		
	視聴覚機器の整備を図る。	視聴覚機器の整備・点検を行い、委員会活動を活発化させ、放送内容を充実させる。	C		
渉 外	PTA活動の活性化を図る。	PTA総会における保護者の出席率を高めるための企画を検討する。	B	B	・PTA 総会の在り方を検討する。 ・E メール等の活用により役員や委員の連絡をきめ細やかにする。
		地域社会に根ざした学校教育を目指したPTA活動を行い、情報を発信する。	A		
		広報誌「たらさき」を通し、本校の教育活動の広報を充実させる。	A		
	役員の資質の向上を図る。	高P連主催の各種大会や研修会等に参加することで、他校の実践活動についての情報収集に努める。	A		

別紙様式 2 (高)

	各種委員会活動の活発化を図る。	生徒指導部と連携し、さわやかマナーアップキャンペーンや登校指導を行う。	B		・広報委員会の開催日を集約化する。
		視察研修の一環として、東京都内の大学キャンパス見学等の企画を検討し実践する。	A		
		広報紙「たらさき」の内容充実にも努め、積極的に保護者と地域社会に発信する。	A		
第 1 学年	基本的生活習慣の確立を目指す。	元気な挨拶や、高校生らしい制服の着用を目指す。	A	A	・基本的生活習慣の確立を推進する。 ・基礎学力の定着と進路意識の向上を図る。 ・新テストに向けての情報収集及び対策をさらに講じていく。 ・修学旅行やクラスマッチ等の学校行事をととして学年・クラスの団結力及び結束力の向上を図る。
		教室、廊下等の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
		登校時間の厳守や、授業のチャイムスタートを徹底し、時間を守る生活を身につけさせる。	A		
		提出物等の提出期日や、学校及び学年の規則等を守らせる。	B		
	進路意識の育成を図る。	「進路サポート」等を利用し、進路研究の活発化を目指す。	B		
		大学見学会を実施するとともに、大学説明会、オープンキャンパス等への積極的な参加を促す。	B		
		学年集会や講演会を実施し、進路に関する情報を積極的に提供し、生徒一人一人の適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。	B		
	基礎学力の確立を目指す。	「予習・授業・復習」を中心にした学習習慣の確立を目指す。	A		
		今 未来手帳を活用して、家庭学習の習慣化を図る。	A		
		週末課題（英・数・国）、朝学（英・国・数・理・語彙読解）を実施する。	A		
		課外授業、模擬試験、学習講座を実施する。	A		
	保護者との連携の強化を図る。	保護者会を実施する。	A		
		保護者との連絡を密にし、問題の未然防止に努める。	A		
		ホームページや学年だより等で、進路や学年の情報を定期的に発信し、保護者との連携・協力体制の確立を図る。	B		
		心身に問題を抱えた生徒を早期に把握し、面談等実施し、適切な対応をとる。	A		
	道徳教育の推進を図る。	発達段階や実態を踏まえて、豊かな人間性、社会性を身につけさせる。	A		
第 2 学年	基本的生活習慣の確立を目指す。	高校生らしい挨拶や制服の着用を目指す。	A	A	・進路実現のために、進路情報の適切な提示等について各学年や進路指導部と連携を図る。
		教室、廊下等の清掃の徹底を図り、学習環境の最適化を図る。	A		
		遅刻防止や授業のチャイムスタートを徹底し、時間を守る生活を身につけさせる。	A		
		提出物等の提出期日や規則等を守らせる。	B		
	進路意識の育成を図る。	進路指導部と連携し、大学見学会・進路講演会・大学模擬授業等を実施し、進路情報を積極的に提供する。	A		
		総合的な学習の時間を利用して、学年集会や進路講演会を実施し、進路に関する情報を積極的に提供し、生徒一人一人の適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。	A		
		全日ホームルームを実施することで、体験学習をととして自らの視野を広めさせる。			
		「進路サポート」等を利用し、具体的な進路を意識させた進路指導を充実させ、進路意識の育成を図る。	B		
	基礎学力の確立を目指す。	「今 未来手帳」を活用して家庭学習の習慣化を図り、「予習・授業・復習」を中心にした学習習慣の確立を目指す。	B		

別紙様式 2 (高)

		週末課題 (英・数・国), 朝学(英・国・数・理・社説)を実施する。	B		
		課外授業 (放課後・早朝), 模擬試験, 学習講座を実施する。	A		
		進研模試デジタルサービスやファインシステムを活用して学習の弱点を認識させるとともに, 応用問題に触れさせて学力の向上を図る。	B		
	保護者との連携の強化を図る。	保護者との連絡を密にし, 問題の未然防止に努める。	A		
		保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し, 学校と保護者との協力体制の強化を図る。	A		
		ホームページや学年だより等で, 進路や学年の情報を定期的に発信し, 保護者との連携・協力体制の確立を図る。	B		
	道徳教育の推進を図る。	心身に問題を抱えた生徒を早期に把握し, 適切な対応をとる。	A		
第3学年	基本的生活習慣の確立を目指す。	発達段階や実態を踏まえ, 豊かな人間性, 社会性と協調性を身につけさせる。	A	B	・基本的生活習慣の確立を目指す。 ・学習環境の最適化を図る。 ・進路や学年の情報を積極的に発信し, 学校と保護者との協力体制の強化を図る。 ・サテライン室の積極的な利用を促す。
		登校指導や学年集会を通し, 挨拶の励行, 時間を守ること, 高校生らしい制服の着用を徹底し, 規範意識の高揚を図る。	A		
		授業のチャイムスタートを徹底させる。	B		
	進路実現のための指導の工夫を図る。	教室及び校舎内外の清掃の徹底を図り, 学習環境の最適化を図る。	B		
		進路指導部と連携して進路講演会・専門学校ガイダンス・面接指導等を実施し, 進路に関する情報を提供するとともに, 生徒の主体的な進路選択能力の向上を図る。	B		
		学習館・進路指導室・サテライン室の積極的な利用を促す。	B		
		模擬試験や個人面談を有効に活用することで, 生徒一人一人の適性, 能力等に応じた進路指導の徹底を図り, 希望の実現に努める。	B		
	課外の充実と生徒が積極的に学習できる環境づくりを目指す。	総合的な学習の時間を利用し, リスニング・小論文指導を計画的に実施する。	A		
		土日祝日に学習館を開館し, 生徒が自主的に学習できる環境を整える。	A		
		放課後及び始業前に課外授業を実施する。また, 土日祝日, 長期休業中にも課外を実施し, 指導内容の充実を図る。	A		
	保護者との連携・協力体制の確立を図る。	学年通信やホームページを通して, 進路や学年の情報を積極的に発信する。	B		
		保護者進路説明会や保護者面談を十分に活用し, 学校と保護者との協力体制の強化を図る。	B		
		成績, 欠席等で問題のある生徒については, 保護者との連絡を特に密にする。	B		
		心に問題を抱えた生徒を早期に把握し, 職員同士で連携し適切な対応をとる。	B		

※ 評価規準 A:十分に達成できた。 B:達成できた。 C:概ね達成できた。 D:やや不十分であった。 E:不十分であった。